

平成 30 年度とりアートメイン事業

オペラ「ヘンゼルとグレーテル」公演企画案

□とりアートオペラとして「ヘンゼルとグレーテル」をとりあげるわけ

本来の童話「ヘンゼルとグレーテル」は狂気と復讐の話だと言われています。近年、童話の世界から残酷さ、狂気、復讐劇などと言う、陰湿な箇所がカットされ、「みんないい人でした」とハッピーエンドに改変するのが当たり前となっています。日本の桃太郎だって、鬼が島に何の目的で行くのかわからなくなっています。「ヘンゼルとグレーテル」だって、お父さんお母さんは優しい、いい人でしたのハッピーエンドになっています。しかし、原典では、お母さんは性悪で継母、現代的に言えば児童虐待の典型のようなわがまま妻。両親が相談して、兄妹を森に捨てようとしたのは、貧しさだけではない醜い自我の欲望があったためであり、それを知った兄妹は、何とか置き去りにされまいとパンきれを道なり撒いたりする。魔女が子供たちをお菓子に変えて食べてしまうと言う話も、実は領主の命で子供をさらい、領主の慰み者にして殺されていたという猟奇殺人事件が潜んでいたりするのです。かつて童話は、教訓を含んだ子供への戒めの書でもあったのです。フンパーディングの「ヘンゼルとグレーテル」は、かなり改変していますが、それでもお母さんは性悪の継母(継母と言うだけで概念的に悪と決めつける童話が多いのですが)として描いています。しかし、母性本能が目覚め改心するハッピーエンドを用意するなど、現代の感覚にも合うようにしています。原作にあるヘンゼルの復讐は割愛され、魔女は焼き殺されるという勧善懲悪の物語として、子供たちへのエデュティメントに仕上げているのです。

この物語のベースは、19世紀初めの、貧しかった時代に、飢餓の中を生き延びるために実際に行われていた「子捨て」の習慣を伝承するものです。更に、フリーメイソンの思想の中で、子供が「親の精神的支配」を打破して、自らの人格を自立させてゆくという話でもあるのです。現代でも大人になっても「親の精神的支配」から抜け出せない者がいるようですが、実は「親の経済的支配」からの脱却が出来ないだけかもしれません、いずれにしろ、19世紀初頭の社会状況も道徳観も大差ないのかもしれません。現代日本の児童虐待、発展途上国での幼児売買、隠れた奴隷売買、猟奇殺人等々の忌まわしい現実の渦巻く現代において、オペラ「ヘンゼルとグレーテル」は、その寛容さ、勇気など、親にとっても子供にとっても一服の清涼剤として感動を与える作品であるのです。



□平成30年度といたアートメイン事業企画案

- ◇ジャンル クラシック音楽
オペラ「ヘンゼルとグレーテル」 (フンパーディンク作曲)公演
- ◇会場 **鳥取県立倉吉未来中心大ホール**
- ◇実施時期 **平成30年12月24日(祝)午後2時開演(開場:午後1時15分)**
- 12/19(水) 仮押さえ 仕込み作業
12/20(木) 仕込み作業
12/21(金) 立ち稽古 仕込み作業
12/22(土) オケ合わせ
12/23(日) ゲネプロ こどもへの一般公開する
12/24(祝) 公演
- ◇委託先 鳥取県文化団体連合会舞台分野合同実行委員会(主管/鳥取オペラ協会)
鳥取オペラ協会・鳥取県ピアノ指導者連盟・アザレアのまち音楽祭実行委員会

◇公演の内容(演目・出演者・指導者等)

○「ヘンゼルとグレーテル」 エンゲルベルト・フンパーディンク作曲

『ヘンゼルとグレーテル』(Hänsel und Gretel)は、ドイツの作曲家フンパーディンクの作曲した全3幕のオペラです。

原作は有名なグリム童話『ヘンゼルとグレーテル』であり、台本は作曲者の妹であるアーデルハイト・ヴェッテで、はからずも題材と同じ兄妹コンビの作品なのです。1891年から1892年にかけてフランクフルトで作曲され、1893年12月23日にヴァイマルにて初演、後にロンドンやニューヨークでも公演されました。この作品はフンパーティンクの代表作であり、ワーグナー以後・リヒャルト・シュトラウス(本作の初演を指揮)以前のドイツ・オペラを代表する作品といわれています。そして、ワーグナー以後に多く現れたメルヘン・オペラの代表的な作品なのです。この作品は世界的にもモーツァルトの『魔笛』と上演回数で競うほどの人気オペラです。

○登場人物

- ヘンゼル(メゾソプラノ) 森で迷う兄妹の兄
グレーテル(ソプラノ) 兄妹の妹
ペーター(バリトン) 箒職人で兄妹の父
ゲルトルート(メゾソプラノ) 兄妹の母
お菓子の魔女(メゾソプラノ) 魔法でおびき寄せた子供たちを捕まえ食べてしまう悪い魔女
眠りの精、露の精(ソプラノ) 森の妖精。眠りの精は眠りにつかせ露の精が目を目まさせる。
お菓子に変えられた子どもたち(合唱 Sp8人 Alt8人+Spsoli+Altsoli)
森の妖精たち(子供バレエ) 協力頂ける倉吉市内のバレエ教室依頼選考(人数は未定)

○あらすじ

基本的に原作であるグリム童話とは異なる設定になっています。

第1幕 (30分)

昔々、舞台はドイツ。貧しいけれど元気な兄妹ヘンゼルとグレーテルが、留守番中のお手伝いを放り出して遊んでいたところへ、急に母親ゲルトルートが帰ってきます。騒いでいた二人を追いかけるうちに、大切なミルクの入った壺(つぼ)を落として割ってしまった母親は、いらいらして子供たちに「森へ行って苺(いちご)を取ってきなさい」と怒りました。

二人が出かけた後、父親ペーターが帰ってきます。子供たちが森に行ったと聞いて驚きました。その森には魔女が住むとの噂(うわさ)があったのです。両親はあわてて子供たちを捜しに行きました。

第2幕(30分)

深い森の中で、苺をいっぱい取って満足なヘンゼルとグレーテルの二人。いざ帰ろうと思ったとき、いつの間にか辺りは暗くなり、帰り道がわからなくなっていました。そこに「眠りの妖精」が現れて、二人を眠らせてしまいます。

しばらくして、次に「暁(あかつき)の妖精」が現れて、眠った二人を起こすと、二人の目の前にびっくりするものがあったのです。

第3幕(40分)

目を覚ました二人の前に現れたのは、お菓子のできた家でした。二人は喜んで家のはしっこからお菓子を食べ始めます。このとき夢中で食べている二人の背後に忍びよったのが、魔女でした。魔女は魔法の杖を使って二人を生け捕りにしてしまい、ヘンゼルを檻(おり)に入れ、グレーテルに食事の準備をするように命令します。そして「ヘンゼルにたくさん食べさせて太らせよ」と言うのです。

しかし、子供たちも負けていません。魔女がヘンゼルに無理やり食べさせている隙に、グレーテルは魔法の杖を奪います。そして、魔女がヘンゼルを釜戸(かまど)の火の中に放り込もうとしているのを逆手にとって、二人で協力して魔女を釜戸に押し込み、ふたをして、魔女をやっつけたのでした。

すると、お菓子の家からたくさんの子供たちが出てきました。この子供たちは、魔女によってお菓子にされていたのですが、魔法が解けたのです。そこにヘンゼルとグレーテルの両親も駆けつけました。みんなで喜んでいたところ、釜戸の中の魔女はというと・・・、すっかり焼き上がっておいしいお菓子になっていたのです。

全公演 (1時間40分)

○出演/鳥取オペラ協会ソリスト及びオーディション合格者⇒ソリスト+スタンドイン

アンダー兼出張公演出演

○演奏/アザレア管弦楽団⇒二管編成版とするか、既存オーケストラに依頼するか未定。

○合唱/オーディションにより選抜(児童合唱)⇒合唱団みらい、明倫小学校・成徳小学校等に依頼。

○バレエ/オーディションにより選抜 ⇒倉吉市内のバレエ教室に協力依頼。

○公演言語/日本語(二期会バージョンとする)

□具体案

○時期 平成30年12月24日(月/振替休日) 14:00~16:30

○会場 鳥取県立倉吉未来中心大ホール

○名称 平成28~「30年度とりアートメイン事業」

オペラ「ヘンゼルとグレーテル」フンパーディンク作曲

○協働公演役割分担

鳥取オペラ協会⇒ソリスト選考、オーケストラ、指揮者・演出者選考、舞台にかかわる業務

鳥取県ピアノ指導者連盟⇒練習ピアノ担当業務(2016年度よりピアニスト練習会を開催する)

アザレアのまち音楽祭実行委員会⇒オーケストラ編成業務・児童合唱のオーディション選考・子供のバレエのオーディション選考

○想定プラン

□企画制作/鳥取県総合芸術文化祭メイン事業部会

□事務局/鳥取オペラ協会公演事務局(〒682-0817 倉吉市住吉町77-1 倉吉市文化活動センター内)

/広報デザイン担当/デザイン工房やまと

アートディレクター、総合プロデューサー/計羽孝之

指揮/未定(オーケストラの決定以後に検討する)

副指揮/地元指揮者(未定)

演出/中村敬一(鳥取オペラ協会専属)

演出助手／西岡千秋(鳥取オペラ協会会員)

出演／鳥取オペラ協会及び一般県民より、公開オーディションにて選考

美術／増田寿子(フリーランス)

照明／榎木実(共立)

バレエ振付／法村友井バレエ団

音響／小野隆浩(びわ湖ホール)

制作プロデューサー／西岡千秋(鳥取オペラ協会プロデューサー)

練習会マネジメント／小倉知子(鳥取オペラ協会マネジメント部長)

練習会ピアノ・マネジメント／鳥取県ピアノ指導者協会(担当／新田恵理子)

児童合唱指導／(鳥取オペラ協会)

音楽スタッフ／副指揮者団・ピアニスト集団未定

○オペラ公演主管／鳥取オペラ協会

○実施年スケジュール想定

オーケストラ編成⇒アザレア弦楽合奏団・アザレア弦楽アンサンブル・アザレア室内オーケストラ・
鳥取弦楽アンサンブルの混成。または、既存のオーケストラに依頼。

練習会場⇒オペラ＝倉吉市文化活動センター

⇒合唱＝倉吉市文化活動センター

⇒オーケ＝倉吉市文化活動センター

公演日本語台本の決定⇒平成28年度内に終了(シナリオ検討)

演出プランの決定⇒平成28年度内に終了⇒プロットの提出

公演企画詳細完成⇒平成28年度内に終了⇒総合プロデューサーが担当

出演者オーディション⇒平成29年4月以降に設定予定

キャスト練習会⇒平成29年6月より

平成30年6月、圧縮版「ヘングレ」上演(サロン公演)⇒オペラ宅配便の設定。

(倉吉交流プラザ・希望小学校二校程度)想定

6月より立稽古(詳細は未定)毎月土曜日 or 日曜日の4回

8月総合公開リハーサル

9月より土日で設定

舞台設定 ⇒平成30年12月21日(金)仕込み作業

平成30年12月22日(土) 場当たりとオケ合わせ

平成30年12月23日(日)公開ゲネプロ⇒催し物化することも検討する

平成30年12月24日(月祝)本公演

○運営スケジュール

2016年

8月31日 とりアートメイン事業部会にて委託事業の概要決定

9月12日 受託事業団体の設立準備(プロジェクト・チームを編成)

10月7日 事業委託先の決定

10月10日 とりアートオペラ公演第一回実行委員会

10月 委託先との契約

11月 受託組織の基本構想決定 第一次広報(チラシ配布/とりアート2016メイン事業)

12月 ソリスト・合唱・スタッフ募集開始(広報開始/チラシ作成)

2017年

1月 オーケストラ編成作業開始

- 2月 合唱参加者候補の決定
- 3月 ソリスト・オーディション
- 4月 オペラ「ヘンゼルとグレーテル」発会式
- 6月 ソリスト・合唱練習開始（具体的練習日程は、マネージャーによって設定）
オーケストラ練習開始

2018年

- 6月 アザレアのまち音楽祭にて、オペラ「ヘンゼル」圧縮版コンサート
- 6月 オペラ練習会開始
- 6月より立稽古（詳細は未定）毎月土曜日 or 日曜日の4回
- 8月総合公開リハーサル
- 9月より土日で設定
- 舞台設定 ⇒平成30年12月21日(金)仕込み作業
平成30年12月22日(土) 場当たりとオケ合わせ
平成30年12月23日(日)公開ゲネプロ
平成30年12月24日(月祝)本公演

○年度ごとの予算想定

現在策定中。